

様式第2号（第5条関係）

令和 6年 2月21日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員 鈴木千逸



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和 6年 2月 16日
- 2 旅 行 先 札幌市
- 3 目 的 予算書・決算書を理解するための基礎知識セミナー受講
- 4 関係書類 別紙のとおり



議員・職員のための

同時開催！
オンラインセミナー

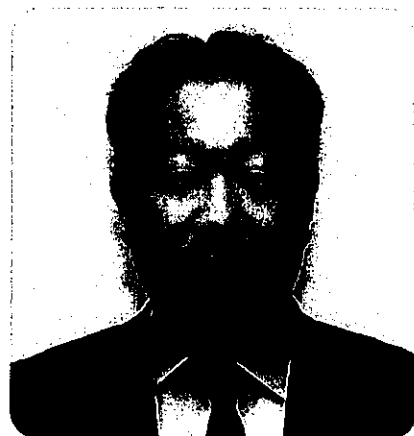
予算書・決算書を理解する ための基礎知識

2月16日(金) in 札幌

10:00~13:00

予算における基礎知識 ～予算書を理解する～

1. 予算とは
2. 予算の構成内容
3. 歳入の費目を理解する
4. 歳出の費目を理解する
5. 地方交付税等の算定方式



講師: 廣瀬和彦

(株)廣瀬行政研究所代表取締役
元全国市議会議長会法制参事

14:00~17:00

決算における基礎知識 ～決算書を理解する～

1. 決算とは
2. 決算の構成内容
3. 目的別歳出
4. 性質別歳出
5. 財政分析指標の読み方
～健全化判断比率等～

慶應義塾大学大学院法学
研究科修士課程修了。

明治大学政治経済学部講
師・明治大学公共政策大学
院ガバナンス研究科講師等と
して活躍。

著書は、「Q & A 議会運営ハ
ンドブック」「地方議員ハンド
ブック」「政務調査費ハンドブ
ック」(全てぎょうせい)など多数。

(株) 廣瀬行政研究所

日 時	令和 6年 2月16日 10:00～17:00
視 察 先	北農健保会館（305会議室）
調査事項	①「予算における基礎知識・予算書を理解する」 ②「決算における基礎知識・決算書を理解する」
対 応 者	①（株）廣瀬行政研究所・廣瀬和彦氏 ②（株）廣瀬行政研究所・廣瀬和彦氏
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背 景 ② 特 徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	予算の基礎について理解を深める目的で受講した。 ①「予算における基礎知識・予算書を理解する」は以下のテーマで講義。 1 予算とは 2 予算の構成内容 3 歳入の費目を理解する 4 歳出の費目を理解する 5 地方交付税の算定方式 自治体の予算・決算は独特で、民間の経営感覚とは大きく違う点がある。最も顕著な点は「利益を出す」という概念がないことだ。民間企業では、利益を出して納税し、株主や社員にも還元する。ひいては地域社会に還元することが責務だが、自治体にはそれが無い。 適正な予算を策定し、それを可能な限り余さず使い切る。大きく余るようであれば、行政サービスが不十分だったのではないかということになり事業そのものの検証が必要だ。また期中で不足が見込まれれば補正予算を組んで議会の議決を待つこととなる。充実した行政サービスをすべての町民に偏ることなく実施することで、民間でいうところの「株主」である町民の評価を待つ。行政サービスに関する事業費はもちろんのこと、貯金にあたる場所の財政調整基金の積立金も予算化して結果を（決算）を見る。この独特な会計の理解を深めるために受講した。 予算決算とも会計区分では、行政運営全般にわたる一般会計、介護福祉学校や国民健康保険などの特定の歳入歳出を特別会計、上下水道事業などの公営事業会計などに区分される。利益を出さずとも良いとは言え、特別会計事業や公営事業は収支が自己完結することが望ましい。介護福祉学校では毎年8,000万円程度の一般財源からの繰り出し金を投入して運営している。そのため、議会が経営改善を指摘した。V字回復とはならないが他の自治体との地域包括連携で生徒確保

に向けて努力している。また、目に見える形で介護福祉に係る町民講座などを開催し町民に知識や知恵として還元してくれている。が、本来は授業料で8割がた運営費を稼ぎ出せる姿が望ましい。

町の人口規模で地方交付税が決まることは多くの町民の方々もご存じのことだと思うが、交付税の計算の仕組みなども講義された。

その他、費目ごとの歳入歳出の説明を受け予算についての復習の意味で理解の浅い部分の補強ができた。

②「決算における基礎知識・決算書を理解する」は以下のテーマで講義。

- 1 決算とは
- 2 決算の構成内容
- 3 目的別歳出
- 4 性質的歳出
- 5 財政分析指標の読み方～健全化判断比率等～

決算についても、理解を深めるために受講した。講義の中では歳入歳出の決算と、項目ごとの内容確認について説明された。健全化判断比率は実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率の4つの財政指標の総称でそれぞれの早期健全化基準に該当するボーダーラインを確認した。決算カードや財務4表の見方についても復習したが、貸借対照表での純資産と負債のバランスなど押さえておくべき点を確認できた。

財政については、事業範囲のすべてを見ながら特に注目すべき点を押さえておきたい。まもなく3月の予算特別委員会が始まり、9月には決算特別委員会がある。

P D C A サイクルが好循環となるように

1. P l a n (計画)
2. D o (実行)
3. C h e c k (評価)
4. A c t i o n (改善)

予算・決算両特別委員会でデータをしっかりと分析し、次の計画に落とし込んで好循環のサイクルを回し続けることができるように理解を深めて町民に還元していきたい。